

新しい 人材活用 プロシエリング

外部プロ人材 活用成功事例



(株)サーキュレーション
代表取締役 福田 悠

No.71 DX推進体制を再構築し、全社業務を効率化

プロシエリングとは、高い職能を持って複数企業で同時に活躍するプロフェッショナルを、経営課題に合わせて「雇用」ではなく「活用」という、新しい人材活用の手法です。2014年の設立以来、サーキュレーションには33,000名以上のプロが登録し24,000件以上のプロジェクトで実績を上げてきました（2026年1月末時点）。プロジェクトは経営要素の強い案件が多く、新規事業の企画推進や、人事・広報等のミドルオフィス支援、さらにはIPO関連から中期経営計画の策定、CFOのシェア、DX・AXなども実行しています。

IT活用により生産性を 全社規模で向上させたい

今回は、大阪市鶴見区に本社・工場のあるベル食品工業株式会社様（以下、同社）が、プロ人材と共に「DX推進作業部会」を発足し、現場主導の業務改善体制を構築したことで、全社的な業務効率化に成功したプロシエリング活用事例をご紹介します。

同社の設立は昭和44年。調理缶詰・惣菜缶詰・レトルトパウチなどの製造販売を手掛け、多種多

様なニーズに応える技術力を持った企業様です。

課題 DX方針はあるが、 実行体制が不足

同社では、経理部門での業務効率化を皮切りに、全社的なIT活用による生産性向上を掲げていました。しかし、バックオフィス部門においては、ペーパーレス化やITシステムの導入を具体的に遂行できる社内リソースが不足しており、特に専門的な知見を持つ人材が不在という課題を抱え、手探りの状態でした。

そのような状況下、必要な時に専門性の高い人材を雇用せず活用できる「プロシエリング」に出会いました。

解決策 DX推進作業部会を 組織化して底上げ

サーキュレーションからはプロ人材のご紹介とともに「DX推進作業部会」の立ち上げと、現場主導による全社的な業務改善の実行」という解決策をご提案しました。

今回ご紹介したプロ人材の大八木慎一郎氏はITベンチャー企業での取締役を経て、建設・不動産企業にて管理部門の責任者を歴任。ゼネコンでは業務管理クラウドの要件定義や人事制度策定に従

事。不動産デベロッパーでは勤怠・会計システムのクラウド化やグループウェア導入による業務フローのデジタル化、人事評価制度の再構築を主導されてきました。中小企業のバックオフィスDXと環境整備におけるハンズオン支援に強みを持つプロ人材です。

●現場ヒアリングによる課題の可視化と推進体制の確立

まず着手したのは、全事業部（開発、資材、品質管理、物流、製造等）への徹底したヒアリングです。大八木氏は現場の声を直接拾い上げることで、どこにボトルネックがあるのかを可視化しました。同時に、「DX推進作業部会」の組織化をサポート。併せて生成AIやRPAなどの最新技術に関する勉強会を実施し、社員のITリテラシーを底上げすることで、「自分たちが主役となって変えていく」という土壌を整えました。

●優先取り組みテーマの策定とツール選定

収集した膨大な現場の課題を、「重要性」と「緊急性」の軸でグルーピングし、優先順位を明確にしました。議論の末、まずはインパクトの大きい「勤怠・給与明細の電子化」および部署間の情報共

■福田 悠

中央大学理工学部を卒業後、インテリジェンス（現パーソルキャリア）へ入社。製造業を中心とした約600社の人材採用を支援。大手法人顧客専門部門を経て、同社初となる社内ベンチャーの立ち上げに携わる。2014年、サーキュレーションの創業に参画。中小企業や製造業大手顧客を担当しながら、地方金融機関とのアライアンス、地方7拠点の設立を主導。2023年4月より代表取締役社長に就任。

■株式会社サーキュレーション

本社：東京都渋谷区神宮前 3-21-5 サーキュレーションビル ForPro
TEL：03-6256-0467 URL：https://circu.co.jp/

有から着手することを決定。大八木氏の知見を活かし、同社の業務フローに最も適したツールの比較・選定を行い、導入後の運用方針までを具体化しました。

●ツール導入とインフラ整備

選定されたツールの導入を推進する傍ら、RPA（ロボットによる自動化）の運用を実践的にサポートしました。併せて、全社展開を見据えたメールアドレス管理ポリシーの策定やドメイン統合など、ITインフラの基盤整理を実施。これにより、単発の改善に終わらない、拡張性のあるシステム基盤を構築しました。

●製造現場への展開とペーパーレス化の加速

バックオフィスでの成功を足がかりに、支援は製造・物流現場へと拡大しました。受注業務効率化受発注システムのための導入や、過去のクレーム記録、生産予定のデジタル共有フローを構築。製造現場にモニターを設置し、リアルタイムで情報共有ができる体制を整

えたことで、現場の省人化とペーパーレス化を一気に加速させました。

成果 事務系の工数を大幅削減 現場主導の仕組みを構築

同社はプロシエアリングの活用により、「DX推進作業部会」の立ち上げのサポートと、現場主導による全社的業務改善の実行に着手し、現場へのヒアリングを通じた課題抽出から、勤怠・給与システムの刷新、RPA導入、製造現場の情報共有のデジタル化などを多角的に実現しました。プロジェクトを振り返って同社では具体的に以下の3つの成果を実感されています。

- ①勤怠管理・給与明細の電子化による業務効率化、RPA活用による定型業務の自動化に成功。特に請求書周りでは約50%の工数が削減された
- ②製造現場へのモニター設置による情報共有のデジタル化を導入
- ③メールアドレス管理ポリシーの策定とドメイン統合など、多岐にわたる改革を実行に移し、現場主導で改善が回る体制を構築



左：サーキュレーション コンサルタント 竹中 萌衣 実
右：プロ人材 大八木 慎一郎氏

成功事例	
No.66	従業員全員の想いがもった企業理念が完成
No.67	海外戦略策定と越境EC店舗開設を実現
No.68	生産機械メーカーが6ヵ月で自社商品開発に成功
No.69	新規事業アイデア制度を新設し、事業化へ始動
No.70	BIツールの有効活用・内製化に成功
No.71	DX推進体制を再構築し、全社業務を効率化

プロシエアリング×業務改善プロジェクトでの支援ポイント

自社の成長基盤を創るために、自社内で推進できる人材の確保に向けて社内異動や兼務アサイン・採用活動を強化する方法がある一方で、実際に各分野での支援実績が豊富な人材に伴走してもらうことも非常に効果的だと感じられる事例です。また、社内メンバーの人脈以外でプロ人材を探す手段として、業務委託での支援を通じてアドバイザーになってもらう方法があります。雇用する場合と比較してミスマッチなどのリスクを低減できる点も有効な手段となりえます。

短期間で組織全体のITリテラシーを引き上げ、実利を伴う変革までできる人材というのは、実際に採用するとなると非常に希少価値が高く、給与も高い傾向にあります。そのような人材を採用したいという要望があった場合はプロシエアリングの活用を検討・提案してみたいはいかがでしょうか。



後列 左から ベル食品工業株式会社 常務取締役 奥出 明弘様
品質管理部 北嶋 真帆様 研究開発部 山内 悠史様
前列 左から 業務部 中村 直樹様 総務経理部 西村 昌浩様